

懸念課題に関する アンケート結果について

令和6年11月
環境省

GFC戦略的目的C：懸念課題の特定・優先化・対応

懸念課題（Issues of concern）とは

- 化学物質のライフサイクルの中で、まだ一般的に認識されていない、十分に対処されていない、または現在の科学的情報のレベルから潜在的な懸念として生じている、人の健康および/または環境に悪影響を及ぼす可能性があり、国際的な行動から利益を得る可能性のある、あらゆる段階に関わる問題。
- GFCの戦略目標Cでは、**懸念課題の特定、優先化、対応**を順次進めていくことが掲げられ、附属書にそのための手順が定められた。
- 次回の国際化学物質管理会議開催までの間は、**SAICMで取り上げられてきた新規政策課題及びその他懸念課題に引き続き取り組む**こととされている（**懸念課題に関する詳細は参考資料4参照**）。

準備会合では懸念課題について紹介の上、本会合での議論に向けた事前アンケートを実施

【着目している懸念課題について】

質問Ⅰ）最も着目している懸念課題（最大3つ程度をご記入ください。）

質問Ⅱ）着目している理由

※国際的に定義されている懸念課題にとどまらず、個別物質、評価手法、適正管理、情報伝達、リスク等、幅広い観点から、それぞれが化学物質管理において懸念課題と捉えている点についてご回答いただいた。

個別物質

- マイクロプラスチック/海洋プラスチックゴミ/ナノプラスチック
- プラ資源循環システムでの有害物質の存在と挙動
- 水環境で検出される医薬品や洗剤等のPPCPs*
- PFAS
- 内分泌かく乱化学物質
- ネオニコチノイド系、有害性の高い農薬
- 農薬など化学物質の環境中曝露による生物多様性影響評価の遅れ
- 水銀ライフサイクル管理の国際連携
- 国内外における窒素管理
- カーボンニュートラルを目指す上で必要不可欠な物質の有無とそれらの禁止
- 放射性化学物質

*Pharmaceuticals and Personal Care Products:
医薬品や化粧品など身体ケア製品由来の化学物質

情報伝達

- 化学物質情報の非対称性が循環型経済への移行の阻害要因となる懸念
- 製品中化学物質情報の精度低
- 国内外、業界横断で利用できる情報伝達ツールの不在
- 資源循環情報伝達の共通ツールの不在
- 化学物質情報の製品表示の徹底と活用

評価手法

- 化学物質グループ化評価
- New Approach Methodologies (NAMs)の実装における法整備
- 国内での化学物質ライフサイクル想定した環境排出係数の精緻化

適正管理・ リスクコミュニケーション

- 環境配慮設計基準のためのライフサイクル素材へのアクセス、使用に関する啓発・対話
- 事業者による化学物質管理の適正化
- リスコミへのエコチル調査結果の活用可能性
- 労働者の安全衛生教育

その他

- 企業による化学物質管理の金融市場における評価
- 化学物質リスク評価研究界と生物多様性保全研究界との連携遅れ
- 欧州ECHAのHot topicsで挙げた課題に関する日本での議論の必要性
- 地球環境三大問題(温暖化/汚染/生物多様性劣化)と化学物質管理との関連性の各研究業界との連携
- 化学品安全に関する人材の育成